

朝市「おいたちの」商品販売



笑顔で商品を説明する生徒（左）と買い物客ら
＝新上五島町、カミティ

中五島高生の模擬会社

新上五島町宿ノ浦郷の県立中五島高（川原智司校長、51人）のビジネスキャリアコース3年生14人が運営する模擬会社「Sea glass」が町内5カ所で朝市を開き、商品の販売実習をした。模擬会社は2020年度から毎年、3年生が取り組む。ビジネスの実行能力や地域活性化を担う人材の育成が狙い。本年度は6月に創立した。今年の朝市は2日から3日



生徒らがデザインしたシャツ、ポロシャツやタオル

間。オリジナルデザインのTシャツやポロシャツなどの商品や、九州各地から取り寄せた和洋菓子や小物などを販売した。

浦桑郷のショッピングセンター「カミティ」で4日に開かれた朝市は、開店と同時に多くの客が来場した。名産の五島うどんやツバキをあしらったデザインのTシャツなどオリジナル商品が人気。「おいたちの方言タオル」20枚は早々に売り切れた。

卒業生の永田亮矢さん（20）＝青方郷＝は「3年前に実習し、地域の人たちとコミュニケーションを取ることができた」、原諒祐さん（20）＝有川郷＝は「模擬会社運営は学校の伝統としてつないでいってほしい」と後輩を励ました。

模擬会社の副社長、白浜凜音さん（18）は「商品の説明をしたら『ありがとう』『頑張つて』と声をかけられてうれしかった。大切な経験」と話した。

生徒らは新上五島町役場の1階ロビーでも約20分間臨時販売会を開いた。

3日間の売上総額は約132万円で、過去最高となった。

（平田有子）